# 会　報

ＴＵＷＶＯＢ会　　Ｎｏ．４２　　２０１１．１２．１５

ホームページ　http://www.geocities.jp/tohoku_univ_wv_ob/

**メールアドレスを変更された方は利根川さんに連絡して下さい**：GWT00287@biglobe.ne.jp

## 東日本大震災における藤中郁生君の被災について

９期（昭和４５年卒）伊藤　健一

東日本大震災において、９期同期、藤中郁生君（以下、敬称略）が宮城県女川町において被災しました。被災直後から現在に至る状況を報告します。

**１．震災直後**

**（１）藤中状況：**　彼は３０年来、女川町で塾講師をしていたが、３月１１日、地震後の津波で、教室兼用の自宅・車等、すべてを流された。津波に追われながら山の手に逃げ、２日間、飲まず食わずの後、１３日に自転車で娘さんがいる仙台にたどり着いた（当時の様子は＊１参照）。その後、１６日に仙台でタクシーを調達し、デイケア施設にいた９１歳のお母さんを連れ戻り、２３日に山形空港経由で東京のお姉さんにお母さんを託し、２４日にバスで仙台に戻った後、バイクを調達して４月６日に女川に戻り、避難所に入った。

**4/15 自宅跡に立つ藤中。右は英国通信社の記者でこの後も女川ボランティアに来た。**

**（２）８・９期支援：**　１１日、仙台に住む私の母の無事確認の際、女川は全滅との話を聞き、藤中の安否を尋ねるべくgoogle person finderに書き込み、１３日夜に彼のお姉さんから生存情報を得た。１７日、仙台にいる藤中から電話連絡を受け、仙台行きバスの発着場所（新宿西口）で２４日朝に会うことに。とりあえず、長年同期山行をしていた８・９期の皆さんに義援金をお願いし、また、藤中希望の物資（コッヘル、バーナー、ランタン、水筒等）を桃谷・原田が買出しし、２４日、原田・伊藤が藤中に会って１７人の気持として義援金・物資を手渡した。物資希望時の藤中の言葉：　“これだけあればワンゲル魂でサバイバルしてみせる”

経緯詳細は８期相原さんが立ち上げてくれたネット掲示板（＊２）をご覧下さい。

**２．その後**

**（１）藤中状況：**　避難所に入ってすぐ、お寺の一室を借りての寺子屋を開始。最初、生徒８人とのことだったが、５月初めの時点では、土日に寺子屋をやり、平日夜に週３回別の避難所で教室を開き、小一から高２まで全体で３０名くらいに教える。いずれも無償ボランティアである。桜が咲き始めるその頃、津波で砕けた桜に２，３輪の花を藤中が見つけ、5月半ばに、日本花の会の樹木医を呼んでボランティアに来た私とともに津波桜救出作戦を実施。これを機に女川桜守りの会を設立した（＊３）。その後、仮設住宅に当たって、６月６日に入居し、女川湾を望む尾根道散歩を再開した（＊１続き）。大きな転機がさらに訪れ、NPOが主催し、学校校舎にて被災した塾の先生やボランティア先生が教える“コラボスクール女川向学館”が７月４日にオープンし、以後、藤中は向学館館長として大忙しとなっている（＊４）。

**（２）藤中サポート：**　女川に戻った藤中の今後をサポートするため、以下の活動を行っている。

a)　**藤中サポート基金の設立：**　継続して藤中を支援するため、4/25基金を設立（１口５０００円の拠出基金拠出を依頼。　代表：桃谷、会計企画：石野、監査物資調達：原田、現地活動連絡：

伊藤）。集まった基金の一部は、下記活動の中でPC等の物資購入や交通費補助等に使用されているが、将来の自立に向け、継続募集中。

b)　女川でのボランティア活動；

・4/11～16　伊藤（健）：　藤中依頼の問題集等を藤中に届け、瓦礫撤去・泥出し等（＊５）。

・4/29 石野がPCを選定して藤中に送付・・・塾の資料やブログの作成に役立っているはず。

・5/1 ～5　伊藤(健/千代)（千代：旧姓櫻井千代子）：　川田農場で野菜収穫・梱包。仙台に居た藤中に配送し、避難所に配送。

・5/14～21　伊藤(健/千代)：　藤中および日本花の会）田中/田崎氏と津波桜救出作戦（＊５）。

・7/2～5　桃谷・原田：　川田農場経由女川へ。野菜を仮設住宅藤中宅に届け、そのまま雑魚寝。

・9/15～18 石野・伊藤（健）：　川田農場で大根等の野菜収穫・梱包。女川の仮設住宅１５４戸に宅配。

・11/16～20　伊藤(健/千代)：　木工ボランティア、鳴り砂海岸清掃、その他、藤中友人の仮設商店街出店にあたり、カウンターテーブル等の製作を依頼される（＊５）。

c)　川田農場：

川田は、2001年より青森県十和田市の２万坪敷地で大規模ハウス栽培を行っている。震災後、藤中や避難所向けに小松菜・山東菜・水菜や大根等の野菜を栽培し、自ら女川に届けるほか、一部を上記のように同期仲間が手伝っている。

5/2 川田農場にて千代と川田

9/18 左から石野、藤中、伊藤。藤中の散歩に同行。山道３時間の結構なコース。

## ３．今後

藤中は今はNPO運営による向学館の館長として一生懸命やっていますが、向学館自身、ずっと続くものではありません。２年続くのか３年続くのかわかりませんが、その後、どのように自立していくかを考えており、その歩みに対して藤中サポート基金の援助を示唆されています。といっても、現状５０万円程度の基金規模ですので、なにほどのことができるわけでもなく、我々にできるのは気持ちを送ることだけでしょう。これに共鳴していただける方がおりましたら、基金への拠出をお願いします（会計石野にメール連絡して下さい。振込み口座番号等をお知らせします。メールアドレス：　QZM10211@nifty.ne.jp）。

なお､津波桜については非常に厳しい状況で私も見てきましたが、一部きのこも生え始めて来春、芽を出してくれるかどうか、わかりません。しかし､桜守りの会として、日本花の会に支部加入し、来春１００本の苗を仮設商店街で育て、将来１万本に増やすとの藤中談・・・心意気がうかがえます。

## ４．参考

＊１：　藤中ブログ　”いきてます”：　http://blogs.yahoo.co.jp/snfkin1984/19475671.html

＊２：　TUWV Support掲示板　http://tuwvsupport.bbs.fc2.com/

＊３：　女川桜守りの会　http://blog.goo.ne.jp/snfkin1984/

＊４：　コラボスクール女川向学館　　http://onagawakougakukan.seesaa.net/　・・・9/10まで以降、特定非営利活動法人NPOカタリバによるHP　http://www.collabo-school.net/

＊５：　チームしらかし華の会（被災地に苗を届けるべく、私が立ち上げた団体です。ここの“活動記録”に私のボランティアレポートを掲載しています）http://www.geocities.jp/teamsirakasi/index.html

## 大震災とその後

７期（昭和４３年卒）真尾　征雄

2011年3月11日、自宅でテレビを見ていた時、緊急地震速報が鳴りすぐ激しい揺れが来た。「ついに来たか」とテレビを支えて身構えていた。我が家は5年前に建て替える時、宮城県沖地震に備えて免震構造にしていたので不安はなかった。それなりには揺れたが、物が落ちることもなく、壁にクラックも入らなかった。携帯で家族に連絡を取りながら外に出た。火事や家屋等の倒壊がないか町内を歩き回った。瓦やブロック塀が壊れた家はあったが、家屋の火災も倒壊も町内には無くほっとした。家内や娘も夜には無事歩いて帰宅し、一安心した。

この日から暫くは窮乏生活が始まったが、旧式の石油ストーブと卓上ガスコンロが役立ち、洗い水は天水と沢水を使い、不便ではあるが不安はなかった。知人・友人からはメールや電話でお見舞いを、また食料品も送っていただき非常にうれしかった。電気が回復し大震災の被害の大きさを知るようになると、自分にできることで支援しようという気になってきた。仲間の安否確認や生活物資の情報交換、食品や水のおすそ分け、近隣や友人宅の瓦礫撤去等々できることをした。男厨会の仲間とは、避難所での炊き出しをおこなった。合唱団の仲間とは、チャリーティーコンサートを開いて義援金を募った。シルクスクリーンの仲間とは、Tシャツに陸前高田の「希望の一本松」を144枚摺って販売し、21万円をユネスコを通して親を亡くした子供たちに使ってもらうようにした。

私は博愛精神が特に高いわけではないが、被災した方々の映像を見て、自然と何かお手伝いしたいと思った。今回の大震災で、はじめてボランティアを経験した人（特に若者）が非常に多いようだ。日本全国で、様々な人たちが自分にできることで支援したいと活動している。日本人の特徴なのか、人間の特性なのかはわからないが、「日本人、まだまだ捨てたもんじゃないぞ」と思うこのごろである。

仲間と自作オリジナルTシャツを着て

## がんばれ宮城　紅葉の蔵王ツアー報告

１０期（昭和４６年卒）菅原　英行

３月１１日の東日本大震災。学生時代を過ごした杜の都仙台に思いを馳せて、「がんばれ宮城　紅葉の蔵王ツアー」を企画し、旧交を温めました。

１．メンバ　　ＴＵＷＶ１０期　１１期　１２期の有志１２人

２．日　程　　２０１１年１０月１日（土）～２日（日）の１泊２日

第１日目　各人毎に電車&バス、マイカー等で遠刈田温泉に集合

第２日目　コースＡ　南蔵王ワンデリング　　コースＢ　熊野岳・御釜ハイキング

●　野家啓一さん・裕子さん

蔵王ツアーでは大変お世話になりました。久しぶりに皆さまとお会いでき、４０年前にタイムスリップしたかのようでした。そういえば、今年はワンゲル卒業４０周年の記念すべき年でしたね。熊野岳ハイキング組は無事熊野岳山頂までピストンいたしましたが、ともかく寒かったこと。避難小屋には氷柱が張って

おり、這い松は樹氷で化粧をしておりました。御釜の水の色も「素晴らしい」の一言でした。ハイキング組５人は遠刈田の老舗の蕎麦やで「鴨そば」を賞味して別れましたが、小生と女房はその後、遠刈田の共同浴場「神の湯」で一風呂浴び、ついでに白石城を見学して仙台に戻りました。大変楽しい二日間で、心身ともにリフレッシュいたしました。皆さまに厚く御礼申し上げます。またお目にかかれる日を楽しみにしております。

●　冨並　重宜さん

皆さん、今晩は。仙台の冨並です。蔵王ではお世話になりました。家に帰ってから、卒業以来はじめて熊野岳まで歩いたことに気づきました。足が痛いのは帰宅後１日で終了。次の機会には山歩き組へ参加したいものです。また皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。
ありがとうございました。

●　今井　和子さん

蔵王の旅、お世話になりました。おかげさまでとても楽しい時間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。富並さん、野家さんからいただいた、たくさんのお酒と笹かまぼこ本当においしかったです。ごちそうさまでした。皆さんの変わらない酒豪ぶりに驚きました。お酒がおいしかったからもありますでしょうか。野家さんご夫妻には、蔵王へのドライブでお世話になりました。祐子さんと一晩一緒に過ごしてお話できたこともよい思い出になりました。遠刈田でさよならする時いただいた、非常食のぬれ甘納豆、おいしかったです。

●　高野　秀夫さん

天候にも恵まれ、ハイキング組も熊野岳と刈田岳に登り、久しぶりの蔵王と周りの景色を楽しむことができました。熊野岳避難小屋付近では、樹氷の種？も見られました。

●　薄木　三生さん

実に久し振りの黄・紅葉の蔵王をありがとうございました。笹かまぼこと仙台の酒であんなに腹一杯になったのも久し振りでした。またの機会までお元気で。

●　若佐　則雄さん

皆様、ありがとうございました。蔵王は昨日（つまり、私たちが歩いた翌日）初冠雪だったそうです。在仙の皆様に改めて差入のお礼を申し上げます。いや、うまかった！

●　田中　康則さん

紅葉の蔵王は楽しい企画でした。天気にも恵まれ、楽しく 蔵王をワンデリングできました。帰りの新幹線で、菅原さん、野本さんとお話していた、この連休の西穂高岳、焼岳縦走も快晴のもと無事登山してきました。今年の北アルプス編は会報に寄稿します。

●　神山　文範さん

１０期の行事に今年は４回も参加させていただき、何か会計が僕の仕事に定着したようです。今後ともよろしくお願いします。さて、今回は１０期の皆様に１１期の園部さん、１４期の野家さん（奥様）も参加されて楽しく過ごさせていただき感謝です。返金は野家さん、富並さんの豪華な差し入れの御蔭で、どんぐりの宴会費がほとんど無かったためです。改めて感謝します。野家さんのBコース報告もありましたが、Aコースも全員元気に南蔵王を縦走しました。屏風では霧氷が残っていましたし、紅葉もきれいでした。

●　菅原　英行

がんばれ宮城紅葉の蔵王ツアーに参加いただきありがとうございました。一日目は、野家さん、冨並さんから多大な差し入れを頂戴し、夕食前から一気に蔵王のピークを極めたような盛り上がりとなりました。二日目は、南蔵王ワンデリンング組７名と熊野岳ハイキング組５名で紅葉が始まった蔵王の山旅へ。天候も味方してくれ、二口の山々、船形山から泉ヶ岳、吾妻連峰、飯豊連峰などの峰々にも出会うことができました。皆さん夫々に新たな元気を取り込み、帰路に就かれたことと思います。

# ２０～２２期　夏合宿（黒部源流と薬師岳）

２１期（昭和５７年卒）千田　敏之

**日程：**2011/8/4（木）～8/7（月）
**メンバー：**岩屋淳（20期）、石井篤、千田敏之(21期）、石川勤、手塚和彦（22期）

「今年はどこに行こうか？」――。昨年末から夏合宿の山域を検討していた20期、21期、22期の恒例パーティーは、当初、東北大・土屋教授（22期）の研究ネットワークを使って白神山地の沢に入る予定だった。しかし、東日本大震災で教授の授業予定や諸環境が激変、白神入山は断念することになった。去年のような鉄砲水の恐怖（恋ノ岐川）はもう味わいたくない。そこで浮上したのが、3年前、2008年の夏も楽しんだ北アルプス・黒部源流。黒部なら勝手知ったる山域、多少の増水でも安心だ。

20期の岩屋さんが「黒部は一度も行ったことがない」とのことで前回とは行程をひと味変えて、赤木沢を完全遡行、別天地・赤木平から薬師沢左俣を下降、翌日薬師沢右俣を遡行し、薬師岳ピークを落とし、折立に戻るという、黒部入門コースを設定してみた。さて、その結果は……。

8/4（木）　いつも使っていた夜行列車「北陸」「日本海」などが廃止されたため、今年は池袋23時発の夜行バスで富山へ。3列シートで意外と快適だが、疣痔を患う私（千田）には辛い時間であった。

8/5（金）　富山からは予約してあった折立行き直通急行バスを利用。朝8時には折立着。太郎平に向け歩き始める。太郎平で生ビールを楽しんだ後、薬師沢出合いに向け下降。薬師沢出合の小屋付近は幕営禁止のため、いつも利用している出合い手前30分ほどにある、左俣・右俣出合い付近のいつものテン場に臨時野営。岩魚をしこたま釣り、焚き火で焼いて、皆で酒を飲みながら馬鹿話をする。たまらないひとときである（写真１）。

8/5（土）　テントはそのままに、昼のソーメンの用意とザイルだけ持って薬師沢出合いへ。そこから黒部源流を遡行し、日本で最も美しいと言われる赤木沢へ（写真2）。

今年の夏の天候はずっと不安定で、この日の天気も曇時々雨。水量も増水中だ。赤木沢を軽快に遡行した後、源流部で流しソーメンを食す。その後、流れが細くなった源流部を詰め赤木平に至る（写真3）。

まさに別天地と言っていい赤木平は、高山植物が咲き乱れる草原で、もし晴れていたらゆっくり昼寝でもしたいところだが、天候が急変、雷も鳴り出したので、薬師沢左俣をすぐに下降し始める。

……が、この左俣が曲者だった。下調べを一応ネットでしていたのだが、「ザイルを出すほどのこともない簡単な下降ルート」とのことだった。しかし、草原を過ぎ、下りが始まると様相は一変。急峻な滝が連続し、滝の脇の藪を使っての過酷な下降を強いられる。7㎜ザイルを持ってはいたが、懸垂下降にかかる時間が惜しいので、左岸、右岸のどちらが降りやすそうかをほぼ勘で判断し、フリーで岩場と藪の下降を続けた。

こういう時にTUWVでの経験と30年超の付き合いが効いてくる。トップの判断を後続の人間が脇から谷を覗き込んでサポート。先行が行き詰まったら、すぐに後続が代替のコースを偵察し、ルートを決める。特に細かな打ち合わせを行わなくても、絶妙のチームワークで“ここしかない”というコース

を自然に選び取り、下っていく。約4時間ほどかけてテン場に到着、皆ヘトヘトで、この時点で「空身の下降でこのバテ具合。明日、右俣をザックを背負って登るなんて無理」との意見多数で、翌日は縦走路から薬師岳を目指すことにする。

8/6（日）　テン場から太郎平にザックを背負って引き返し、指定幕営地の薬師峠にテントを張って、薬師岳ピストン。何度もこのエリアを訪れているが、薬師に登るのは皆初めてだ。今回は百名山ハンターの手塚、石川の要望を叶えるための山行でもあるので、石井、千田も渋々、薬師岳を目指す。ただ、岩屋さんは女子大生溢れる薬師峠のテン場の雰囲気が気に入ったのか「ここで山ガールを見ながら待ってる」と、1人だけピストンをしない決断をする。

8/7（日）　薬師峠のテントを撤収。太郎平を経て折立に下山。富山で寿司を食べて列車で帰京した。

皆、50歳を超えて、膝に爆弾を抱えるなど、荷物を担いでの沢遡行が困難な年齢となってしまった。空身の沢登りか縦走がこれから夏合宿の形態となるだろう。もっとも、黒部源流はあと5`6年たっても我々にも遊べそうだ。また皆と訪れたい。

## 第3回45期同期山行改め・・ぽれぽれ山行【2011年10月15～16日　葉山】

４５期(平成１８年卒)　平田 弘一郎

45期 佐藤、多田、長井、平田 47期 鹿嶋、蔵本、渋谷、森田 48期 野尻、宮地 現役 桑原 他ゲスト

〇はじめに

恒例になりつつある45期同期山行。今年は震災翌日に雨宮と46期の曽我が挙式したが、東日本に散らばっている45期は残念ながら誰も参加できず、7月末に祝賀会を開いた。そこに参加した面々に声を掛けたことから微妙に膨れてこのメンバーに。その他45期では@ドイツの草野と体調不良により雨宮が不参加、浜本は夜からの参加となり、ごちゃ混ぜ12人パーティで村山の葉山へ。

〇葉山登山

前々日から雨の予報。この天気図は・・と思い、事前に45期で多数決をとるが「登る！」の回答。当日もアプローチ中の雨に心折れそうになりながら、(30分遅刻して)登山口に到着すると、既に全員集合している。再度多数決をとると、やはり「登る！！」が圧倒的多数。遅刻したことを悪びれもせず、この〇〇共め・・と思いながら入山することに。

登山道中は樹林帯のおかげもあり、ほとんど濡れることはない。上下カッパを着て歩くと暑くなる位。ワンゲル的な歩き方を離れた者も多く、12人もいると歩くペースもまちまちで数分でパーティが分割されていく。勾配にきつさを感じながら、それぞれの話題に花が咲き230m程高度を上げ滝見台へ。文字通り滝がよく見え、旬の紅葉の奥に映える滝がとてもきれい。小休止の後、さらに200m程アップしてから3週間前に腰を負傷して様子見をしていた長井が安全を見て下ることに。佐藤も付き添いで下山開始。残りの10人で稜線を目指す。同期山行って何だっけ・・。徐々に稜線に出る所にあるポコンの烏帽子岩が大きくなってくる。中々でかい。稜線を目前にした岩を巻く山道にやや高度感があり、天候のこともあるため蔵本と二人でR.F.。案の定、稜線上は視界がなく風も強いため引き返すことに。途中、昼食を摂り下っていくと、東の空が晴れている。振り返ると烏帽子岩はガスの中。若干の運の悪さを感じながら、無事下山。登山口で待つ佐藤、長井と合流して温泉へ。

〇宴

温泉と買い出し後、鮭川エコパークのコテージへ。朝(夜？)が早かった者が多く、夕食まで昼寝。例外なく一同ぐったりしている。夕方、浜本夫妻が合流してBBQの準備開始。火起こしから調理まで14人が入り乱れて作業に取り掛かり、あっという間に準備が整う。学生時代に比べ差し入れの酒とつまみのグレードも上がっているのも気になるが、いつも通りの安定感を誇る佐藤のあいさつで宴が始まる。10月生まれの多田の誕生日を野尻特製ケーキで祝いつつ、それぞれにお年頃な話題で盛り上がる。女性6人が固まって話してた時の近寄りがたさは何とも言えないものがあった。夜が更け体力が尽きたものから布団へと沈んでいく。かく言う私も宴の最期を待たずに夢の中へ。。

〇最後に

3回目を迎えた45期の同期(？)山行。過去2回は佐藤が主だって企画してくれていたが、今回企画したことで改めて大変さが身に染みた。同期が7人いることで2人位のメン欠でも何とか形になるが、来年はぜひ全員集まりたいものだ。最後になるが、関東在住者がほとんどの後輩達にたくさん参加してもらって感謝です。誰ぞの結婚式位でしか集まる機会がないけど、何かに理由つけて集まりたいものですね。

## ’11 南アGK3 party　夏合宿報告

５２期（現役）桑原　里

＜期日＞8月17日～23日　6泊7日

＜メンバー＞PL桑原里(2)、SL御子柴駿(4)、M小泉匠平(1)

8月17日(水)　北沢駒仙小屋→甲斐駒ケ岳→北沢駒仙小屋　天気:晴れ/雨/晴れ

3:00起床、5:09出発。2日後以降の装備は全てテン場にデポしているため、歩荷が軽い。駒津峰を過ぎたあたりからガスが出て展望がなくなった。百名山と言うだけあって駒ケ岳山頂は大混雑。山頂で若干遅めのLをとっていると雨が降り出した。濡れたくないのでさっさと退散。駒津峰まで戻ると、ガスも晴れ、晴天が広がった。先ほどまで雨だった駒ケ岳山頂がくっきりと見える。このままテン場に戻っても暇なので、駒津峰で1時間お昼寝タイム。北沢駒仙小屋に戻り20:30就寝。

8月18日(木)　北沢駒仙小屋→仙丈小屋　天気:曇り/雨

3:00起床。日の出前から、仙丈ヶ岳や駒ケ岳へ向かうヘッドライトの列に驚く。5:12出発。出遅れたせいだろうか、5合目までほとんど他の登山者に会わなかった。2日目はコースタイムが短いため、テン場飛ばしも考えるが、天気が悪いので、正規通り仙丈小屋に泊まることにする。仙丈小屋にてLをとっていると、奈良大WVが引き返してきた。話を聞くと、メンバーが低体温症になったためエスケープするそうだ。しばらくするとガスが晴れ、仙丈ヶ岳の山頂が見えた。振り返ると甲斐駒ケ岳や鋸山が見渡せる。一気にテンションが上がり、仙丈ヶ岳までお散歩することになった。稜線上に出ると、急にガスが出てきて一面真っ白。甲斐駒ケ岳どころか仙丈小屋も見えない。北岳が見えるかと期待していたのにな…。世の中そんなに甘くないか…。山頂で散々粘るが、ガスが晴れる気配がないので撤退する。仙丈小屋はテン場がないので、この日は素泊まり。Dは自炊場をお借りして、五目ご飯とすいとん汁の超重

量メニューだ。夜になるにつれて、天気が荒れてきた。20:30就寝。

8月19日(金)　仙丈小屋→両俣小屋　天気:雨

3:00起床。朝から天気が悪い。が、この先もっと悪くなっても困るので、早々両俣小屋へ向かうことにする。5:02出発。仙丈ヶ岳は今日も真っ白だ。仙丈ヶ岳から南へ、仙塩尾根に乗る。徐々に標高を下げて樹林帯に入ると風雨も収まった。野呂川越から両俣小屋へはどえらい急斜だ。誰が最後まで滑らずにいけるか競争しようということになり、気合を入れて下る。結局誰も滑らなかった。11:47両俣小屋着。お昼寝したり、川で洗濯したり、水浴びしたりと、各自思い思いに過ごす。

8月20日(土)　両俣小屋→北岳山荘　天気:雨

3:00起床。雨はやんでいる。5:17出発。例の急斜を登って稜線上に出る。ここから約900mUPだ。真っ白いガスの中をひたすら歩く。間ノ岳で一本をとっていると、両俣小屋で一緒だった東大のパーティーが追いついてきた。天気が悪いので、ここからエスケープするらしい。東大パーティーに別れを告げ、北岳山荘に向かった。この先天気が良くなる気配もないので、北岳ピストンを翌日にまわし、北岳山荘で行動を終了した。朝は風が強いという山小屋の主人のアドバイスにより、明日は出発を遅らせて北岳をピストンし、農鳥岳には行かずに熊の平小屋へ向かうことになった。20:30就寝。風の音で何度か目が覚める。

8月21日(日)　北岳山荘→北岳→三峰岳→熊の平小屋　天気:雨

4:00起床。雨は相変わらず強く降っている。Bを済ませ、しばらく小屋で様子を見ることにする。7:00頃、風が弱くなってきたため、必要な装備以外を小屋にデポして出発。北岳山頂は甲斐駒、仙丈と同様で全く展望なし。どうやらお天道様に見放されたようだ。北岳山荘に戻り、山小屋の主人にココアを御馳走になった。一息ついてパッキングを済ませ、10:00出発。三峰岳まで昨日来た道を引き返す。三峰岳からはガレた岩場歩きだが、三国平から先は打って変わって歩きやすい登山道だ。ぬかるみを避けながら熊の平小屋へ向かう。14:20熊の平小屋着。

8月22日(月)　熊の平小屋→塩見岳→三伏峠小屋

天気:雨/一瞬晴れ/曇り

3:00起床。雨。今日は何としても塩見小屋を飛ばして三伏峠小屋へ行きたい。5:20出発。これから長い尾根歩きだ。展望はないものの、樹林帯の中を歩くので、飽きることがない。ルンルン気分で歩いていると、大きな一枚岩で滑り、カッパのお尻を破いてしまった。……。北荒川岳手前で突然太陽が顔を出した。このまま晴れてくれないかな、と期待せずにはいられない。が、あっけなく期待は裏切られ、塩見岳へ登り返そうとするころにはまた一面真っ白な世界になった。塩見岳山頂はツアー登山者で混雑していた。ここからはもう下るのみ。しかし、TOPのスピードが上がらない。どうやら、降り続く雨のせいで足の皮がふやけ、非常に痛いらしい。まあ、ぎりぎり天図の時間には間に合うだろう。三伏峠小屋についたのは15:20。これで明日のコースタイムは2時間だ。皆、喜びを隠せないようである。21:00就寝。

8月23日(火)　三伏峠小屋→鳥倉登山口　天気：雨/曇り

3:00起床。雨。5:09三伏峠小屋を出発してどんどん下る。2時間後には下山していると思うと、ついペースが上がってしまう。途中の水場でのどを潤し、ひたすら下る。6:44鳥倉登山口ゴール。

この夏合宿は7日中7日が雨だった。下山後その話をする度に、日ごろの行いが…という答えが返ってきた。しかし、雨の時にしか見られない景色や生物、雨の時にしか味わえない楽しさや辛さ。今回の合宿では、十分にそれらを経験できたわけだ。でもやっぱり、晴れの日には勝てないか～。

# ウスユキソウ

４期（昭和４０年卒）大東磐司こと小原佑一

ワンゲルに入部した年の夏合宿は飯豊・朝日連峰の縦走でした。新人である我々１年生は飯豊か朝日、どちらか一方の縦走でした。半世紀前の話です。梅雨が明けていない7月上旬、雨と霧で見通しの利かない飯豊の稜線に出て、気になったのがヒナウスユキソウでした。エーデルワイスに似ていると聞いていたヒナウスユキソウが霧の中で咲いていました。葉の部分の白い綿毛がそれほど密でなかったので、「何だ、こんなもんなのか！」と言う、ちょっとさめた印象でした。当時の写真を捜してみましたが花の写真は見付かりませんでした。

スイスでエーデルワイスの押し花の飾りをお土産に買いました。色があせてしまいましたが綿毛はたっぷり付いています。（写真―①）ヨーロッパの空港では花の種をお土産用によく売っています。

エーデルワイスの種も売っています。発芽させるにはコツがいります。種を一度冷凍庫で冷やし、厳寒のアルプスの冬を経験させるのです。でも、横浜で育ったエーデルワイスは綿毛の少ない、ぱっとしないものでした。

モンゴルで見かけたウスユキソウは広い広い草原に生えていて高山植物という印象はありませんでした。可憐と言うより力強さを感じました。（写真―② ③）

この秋、早池峰に行ってきました。人のゾロゾロ登る山は何となく行く気になれず、避けてしまう悪い癖があります。登り口の駐車場についたのが夜中、車中泊して紅葉の始まった静かな林道を歩く。峠から先、高山植物の監視員と前後しながら、吹きつさらしの尾根を登る。風が強烈に冷たい。足元には茶色く枯れたハヤチネウスユキソウがそこかしこにある。日本に生えているウスユキソウの仲間では一番エーデルワイスに似ているといわれているがやはり違う。（写真―④ ⑤）　秋の平日、それも逆コースをとったせいかそれほど人にも煩わされず静かな山を楽しむことが出来ました。今度はハヤチネウスユキソウの花を楽しみに人のあまり登らないルートから来ようかな。

エーデルワイス

モンゴル薄雪草

ハヤチネ薄雪草

# アルプス４０００m峰登山の記録

４期（昭和４０年卒）島崎　質

６５歳を過ぎて体力の衰えを感じ始めたとき、もう少し頑張るために何か目標を持たねばと考えて、「７０歳までに６０あるアルプスの４０００m峰の３分の１まで登ろう」という決意をしました。

何とかクリアできましたので報告します。

アラリンホルン　4027m　1989.8.15
登山学校の募集に恐る恐る参加。最も楽な山の一つ。
地下鉄を降りて登り２時間
ナーデルホルン　4327m　1989.8.18
３５００mで初めて頭痛を体験
アルプフューベル4206m　1991.8.12
ヴァイスミース　4023m　1991.8.15
ビスホルン　4159m　1992.8.8
トレーニングのためその後４回も登った
カストール　4228m　1996.8.14
ツィナールロートホルン　4221m　1997.8.12
初めての４０００mの岩山
ダンブランシュ　4356m　1998.8.11
白い歯。最もあこがれていた山
リムプフィッシュホルン　4199m　2000.7.30
ラッギンホルン　4010m　2001.7.31
オーバーガーベルホルン　4063m　2003.8.5
多くの人がスイスで最も美しい山と言う
アレッチホルン　4195m　2004.7.31
登り８時間、下り５時間半、きつかった
マッターホルン　4478m　2004.8.8
前々日の降雪のためソルヴェイ小屋(4003m)までで断念
ブライトホルン　4164m　2005.8.5
ポリュックス　4092m　2005.8.6
メンヒ　4099m　2006.7.30
ユングフラウ　4158m　2008.8.1
リスカム西峰　4479m　2009.7.21
ピッツベルニーナ4049m　2010.7.10
アルプス最東端の４０００m峰
バールデゼクラン4101m　2011.8.2
最西端の４０００m峰。　スタミナ切れのため隣接峰（4015m 写真中央)で打ち切り

ダンブランシュ（左）

オーバーガーベルホルン

マッターホルンの夜明け

バールデゼクラン

## アルプス、パノラマの道トレッキング

５期（昭和４１年卒）八木　眞介

７月７日から７月１７日、アルプスに出かけた。今回は、スイス中央山地、ベルナーオーバーラント山群、ゲンミ峠越え、ヴァリス山群、ミシャベル山群といった山々の展望を楽しむトレッキングである。

最近移動で何かが起こるが、今回は成田の出発便が大幅に遅れ、７日中にチューリッヒへ着けないことがわかり、急遽ＫＬＭからルフトハンザに振り替えての出発となった。

８日はスイス中央山地の縦走で、ヨッホ峠から尾根ぞいに３つの湖を巡るハイキングで、花が咲き乱れた、景観も素晴らしいハイキングであった。

９・１０日はベルナーオーバーラント山群を展望するハイキングで、ヴェッターホルンの直下のグローセ・シャイデック峠から、アイガー等の山々と谷を挟んで対岸の尾根の中腹を歩いた。天気も良く、このルート上からは、ヴェッターホルンから、アイガー、メンヒ、ユングフラウ、さらに続くベルナーオーバーラント山群のすべての山々を一望でき、最高の気分であった。この道も花の多い道で、眺望と花とで、素晴らしかった。

１１日は昔の通商の道として有名なゲンミ峠を目指すハイキングである。ロープウェイから見る峠越えの道は、垂直に近い絶壁につけられた驚異の道であった。

１２日はツェルマットからマッターホルンの登山基地となっているヘルンリ小屋への往復で、ロープウェイで途中まで上がり、そこから岩の多い尾根道をヘルンリ小屋（3,260m）まで登った。登るにつれて大きく迫るマッターホルンの山容は迫力満点であった。

１３日はマッターホルンの対岸のオーバーロートホルン（3,415m）に登頂した。山頂からは大展望が見られるはずであったが、強風とあられで、展望は全くだめであった。ここでは、野生のエーデルワイスを初めて見られたことが唯一の成果であった。

１４・１５日はアルプスの真珠と呼ばれるサースフェーをベースに、ミシャベル山群の展望を楽しんだ。地下ケーブルで登る氷河台地ミッテルアリランは夏スキー場もある白銀の世界である。

マッターホルンが迫る

ベルナーオーバーラント山群の大パノラマ

## パタゴニア難民旅行＆ブエノスアイレス観光旅行？

## （パタゴニア　トレッキング　顛末記）

５期（昭和４１年卒）八木　眞介

「機内－空港ロビー－ホテル－赤十字軍避難所－ホテル　・・・・・・」？

１月１３日成田を出発、アトランタ、サンチャゴ経由で約３６時間という長旅で到着した南米大陸最南端のプンタアレーナスの空港では、迎えの車が来ていないという事態が待っていた。５時間後に徒歩で到着した現地スタッフの説明では、ガス代値上げ反対の住民ストで道路が封鎖されており、車が使えないとのこと。結局その夜は空港のロビーにごろ寝し、翌日スーツケースを空港に残して２０ｋｍを徒歩でホテルに移動した。その翌日、サンチャゴへの便の予約が取れたとのことで急遽空港に

移動したが、予定の飛行機が故障で飛んで来ず、その夜は赤十字軍の避難所で寝る羽目に、次の日にやっと飛行機に乗ることができ、サンチャゴ経由でアルゼンチンのブエノスアイレスへ移動した。

前半のパイネ山群をあきらめ、ブエノスアイレスから逆ルートで後半のフィッツロイ山群に入ることになったが、４日間足止めされ、予定外の市内外の観光で時間をつぶした。バスによる市内ツアー、ラプラタ川のデルタ地帯のクルーズ、牧場での乗馬等とバーベキュー、アルゼンチン・タンゴショー、市内の散策と買物といった具合で、まさしく観光旅行状態となってしまった。

ツアー９日目にやっとフィッツロイ山麓に入り、２日間のトレッキングとなった。行先は山群の中のセロ・トーレＢＣの往復だが、初日は雨まじりの強風の中を歩き、テントでは一晩中風の轟音を聞いて寝た。２日目は晴天ではあったが、前日以上の強風と、山の上部はガスの中で、お目当ての岩峰群を全く見ることが出来ずに終わった。唯一実感できたのは、“風のパタゴニア”の片鱗であった。

結局はこのようなとんでもないツアーになり、天候による計画変更だけでなく、こんな人的異常事態も起こることを体験した貴重な旅でもあった。

ペリト・モレノ氷河

## 黒姫山登山

６期（昭和４２年卒）加藤　邦明

平成23年８月11日（木）の7時48分戸隠牧場脇の大橋駐車場に愛車を止め、登山靴に履き換えて７時58分に出発した。選択した「大橋林道」は車の入る砂利道で、黒色や、焦げ茶色に白色の縁取りをしたアゲハが舞っていた。「戸隠竹細工の森」、「山頂→」の看板が左手に出て、山道に入った（８時40分）。ダラダラ道を登ると、９時17分には新道分岐に到着した。

10名位のグループが古池コースから上がって来た。重ならないように先行し、「しなの木」に９時50分、姫見分けか？目前に御巣鷹山（小黒姫）が見えた（10時35分）。笹藪が終わって足元には岩塊、ウスユキソウが咲くしらたま平？に10時55分、峰の大池分岐で11時07分、足元のぬかるみに笹が覆う、標高2,053ｍの黒姫山の山頂には11時21分に到着した。

頂上からは、富士山が見えることになっていたが、待てどもガスが晴れそうにないので、昼食を摂って11時43分に下山を開始した。直ぐに、先ほどの10人組の登りとすれ違った。大池分岐に11時54分、石の表面に苔の生えた急激な下り、火口原の七ッ池分岐に12時16分、大池に12時20分着。見掛け上の峠に12時37分、天狗岩に13時15分、西登山口に13時45分に到着した。大ダルミに14時05分、新道分岐に14時25分に到着した。林道に14時52分に出て、駐車場には15時20分に到着した。

西登山道新道からの登りは駐車場から約３時間20分で、頂上からの西登山道の下りは約３時間40分であった。黒姫山は登山道の整備が今一歩で、初級者にはあまり紹介したくない状況で有った。登山マップでも情報が少なく、特に大池巡りの西登山道コースは巨礫の乗り越えで手間のかかる割には短めの設定で、現地も案内板の表示に不親切さを感じた。

# 隠したい痔と自覚症状な病気とその治療無い糖尿病という厄介

７期（昭和４３年卒）金子　清敏

私は大変小心者で、目薬を一人でさせません。喉へのルゴール塗布もアーンと言われている内にノドちんこを閉じてしまいます。歯医者でのガリガリも腰が浮いてしまいます。ましてや胃カメラや大腸内視鏡等の検査は、健康診断の結果が悪くてもその受診からは逃げ廻ってまいりました。

その昔、例の２階で開催されるワンゲル総会飲み会コンパでは、４年生関川主将は恒例の痔の挨拶で始まり、食事が始まったにも拘わらず　”痔にもいろいろありまして、切れ痔・イボ痔・脱肛に痔ろう・・・”　と、耳を塞ぎたくなるようなご自身の痔の口上でした。そして40年過ぎての今、自身に振り返れば、会社の寮生活での無節制、実業団サッカーへののめりこみ、一方タバコのヤニ部屋での麻雀打ち、また酒もそれなりに、方丈記の如くとどまることなく飲みあかしたことにもよったのでしょうか、在る時は排便時に脱肛で苦しみ、在る時は便器が鮮血にまみれるほどにもなり、他人に言えない痔の苦労がありました。そんなことも、終に職場を終わる最後の区切りとしての健康診断を受け、血便検査でガンでないことを願い、俎板の鯉となり、勝手に診てくれと観念したのが５年前の大腸内視鏡検査でした。

真横の術画像で映し出される腸内壁に、ポツポツと襞に隠れては現れる鮮やかな肌色の、それはまた美しく輝くいくら（真珠？）と見間違う丸い粒（ポリープ）で、まさに北海道日本海の磯焼けした岩肌に点在するウニの現出のようでした。その見事さは食を誘うほどのものでした。手術中先生は遠隔削除器をまさぐりながら、プリプリしているからガンにはなってないな、でかいけどバキュームで吸いだせるかな？とか、ぶつぶつ言いながら大腸出口で３個、中間で３個、奥で2個と大きく育ったものだけを、チョキン・チョキンと焼き切っていく。別に痛くはないが、尻から腹の中へ毛むくじゃらの手を突っ込まれているようで気持ちは良くない。術経過は４０分ほどで、直径１６ｍｍ、１５ｍｍ、１３ｍｍと各種合計8個を取り去った。今回の除去は腸壁強度を守るためにこれが限度数であり、残る大きい７個は翌年摘出となった。もう少し大切に育てていたら、真空吸引のパイプ内径は１８ｍｍの為、腹を切開するはめになっていた。お陰様で以後、排便時の神様・仏様にうなって呪文となえる脱肛の苦しみと鮮血は全く無くなった。恐らく腸の出口付近のポリープが排便時のスムーズな動きの邪魔をして腸の内壁を引きずり出そうとし、その激痛に伴う出血があったのであろう。

翌年の除去手術は、襞に隠れている支障の無い小さいものを残して、血圧も上がらず順調に終了。ポリープは、年とともに誰にでも多少の差はあれ発生し、それが大きく、色・形悪く、グシャ・グシャになるかでガンに向かっていくらしい。くれぐれも痔とポリープを取り違えないように、心ある方は早急に処置して健康体になってください。

次に現在患っている糖尿病についてお話いたしましょう。昨年5月には血糖値/ヘモグロビン値が107/6.1であったものが、１１月には１３９/6.6に上がり、今年３月になると１８７/7.3、良くなるかなと放置していたら、８月には２４０/10.0、終に９月初めに２５５/10.4となり、町医者は慌てて処置の出来る大病院へと急遽手配する羽目になった。５段階評価＜優（１０８/5.8）・良(130/6.5)・不十分(160/7.0)・不良(160/8.0)・不可(160以上/8.0以上）＞を大きく外れた危険域に入っていた。放置しておくと、すい臓機能が衰え合併症が始まり、網膜症・腎症・神経障害等が起こり、指先が腐り始めます。一方、他病気治癒に対しては点滴・注射療法が受けられません。

検査は一方的に決められ、エコー、CT、内視鏡等を存分に駆使して身体各所を細かく調べられた。結果は、内臓脂肪と多少の胃焼け意外に現段階では悪い状況は見つからないとの事であった。とりあえず、投薬療法で様子を見ることに成り、徹底した食生活改善することになった。９月６日より、先ず１ヶ月検診、その後２ヶ月後に検診した１２月７日の結果は１０７/5.5に値低下し医者も驚くほどであった。

毎日１８時になると青面金剛の三戸虫ではないが、体内から騒ぎはじめ一人で又誰彼と飲み始める。そして夜食をとり、更に酔い治しに甘いジュース・コーラ・アイスクリーム等を遅いテレビを見ながら手当たり次第、摂取する毎日であった。自室に冷蔵庫を備えてあるのも深夜飲食を助長した。積もり積もった結果（これが暴飲暴食という）、インシュリンも疲れで糖の分解が出来なくなってしまった。通いなれた藪医者は、悪しき検査数値に対して患者には何か強く言えず、一方更なる重なる酒宴と美酒にめぐり合い、ズルズル悪い状態になってしまったのでしょう。

治療の為に食生活は、酒抜きのきちんとした３度の軽めの食事、間食の絶対禁止、ジュース類・果物の摂取禁止、煎餅類もだめ。そして適度の運動。・・・検査・治療の為に致し方ないことと酒店に入れない侘しさを感ずることでした。そのように徹底節制した結果なのか、不屈の身体なのか投薬治療中とはいえ、神に感謝するほどにだるかった歩行も今では、時速５ｋｍで１持間は楽に歩けます。これから１００歳までの向こう３０年残った人生を過ごすには、人として健康な食生活をすることです。糖尿病には自覚症状がないことで酒に溺れ、糖尿病になって初めて乱雑な食生活に気がつきました。＜糖尿病かなと分る症状を、下記自覚したら気をつけて血液検査を受けてください。・・小生の症状＞

1. 喉（口）が渇き、他人より倍以上の水分を飲む。
2. 酒を飲んだ時にも水を欲する。
3. 頻尿（寝てから３回以上起きる）
4. 体重減少（８月に１ヶ月で急に７ｋｇ落ちた）
5. 疲労感（歩くのも億劫になる）
6. 足が朝方つる。

以上とりとめも無く記述しましたが、どなたかの人命幇助になればと思うだけです。

## 3000ｍ　雲上のクライミング　北穂高岳・滝谷ドーム

８期（昭和４４年卒）佐藤　拓哉

3000ｍの高みでのロッククライミングは実に気持ちがいい。天気に恵まれれば、雲海を見下ろしながら岩壁を登ることができる。今年の夏、クライミング仲間二人と北穂高岳・滝谷ドームを登った。三度目の滝谷ドームであり、今回はビデオ撮影をしながらのクライミングである。メンバーの一人は日本のクラシックルートのビデオを作ることをライフワークとしており、私とはこれまでに、谷川岳・一の倉沢４ルート、幽ノ沢１ルート、錫杖岳２ルート、黒部丸山東壁２ルート、八ヶ岳・大同心１ルート、端牆山１ルート、計１１ルートのビデオを作っており（http://www.originalcv.com/climbing/pages/etc/etc.php）、今回は滝谷ドーム３ルートの撮影をする計画であった。

毎度のことであるが、重い登攀具を担いで一気に北穂高岳に登るのは本当に辛い。北穂南稜の登りでは足が痙攣しそうになった。北穂小屋にたどり着いた勢いでビールとワインでの乾杯にちょっと付き合ったのが大きな間違いで、夕食の時に気分が悪くなり、北穂小屋自慢のポークソテーを食い損ねてしまった。

初日は、天気が微妙であったが、中央稜（５ピッチ）を登った。滝谷はどこも岩が脆く、滝谷ドームも西壁は大きく崩れてルートが消失してしまった。また、多くのルートは取付きまでガリーを下って行かなければならないが、落石が多く、とても下る気になれない。中央稜は比較的岩も硬く、アプローチも安全（と言っても岩場をクライムダウンしなければならないが）であり、登る人も比較的多い。当日の朝は雨こそ降っていないが、ガスがかかった中で登攀を開始した。晴れた時のような高度感はないが、ガスの中の岩壁は独特の雰囲気を持っている。これもまた3000ｍでのクライミングである。４ピッチ目を登る段になってとうとう雨が降ってきてしまった。あと２ピッチ、濡れて滑る岩に注意しながらドームの頭に抜けた時には雨も止んでいた。

二日目の朝は、槍、穂高は雲海の上に頭を出し、見事なご来光を堪能することができた。今日は右の写真の滝谷ドーム北壁の２ルートを登ることにした。この写真は北穂頂上から撮ったものであり、北壁の顕著な２本のクラックが丁度正面に見える。左ルートは２本のクラックの間のフェースを人工登攀で登るものであり、右ルートは右側のクラックをフリー主体で登るものである。いずれも２～３ピッチと短いルートであるが、3000ｍの稜線でのクライミングは何ものにも代え難いものがある。上高地から一気に登ってきた苦労が報われる瞬間でもあった。

二日間の充実したクライミングを終え、四日目にのんびり下山した。涸沢からは横尾経由ではなく、パノラマコースを徳沢へ下った。すれ違った登山者は二人だけであり、混雑する北アルプスの中で静かな山旅を味わうことができた。

## 谷川岳一ノ倉沢衝立岩中央稜

８期(昭和４４年卒)相原　敬

今まで一ノ倉沢の出合は何度も訪れたことのある観光地という認識しかなかった。サンカヨウの花に見送られて雪渓で埋まった本谷をつめ、テールリッジに取り付いたのが６時。終始正面に聳える衝立岩は、朝日に輝いて険しくも美しく大迫力の全容を呈していた。

クライミングを始めて日の浅い我が夫婦に衝立岩登攀などという大それたことが許されるのだろうかと思ったが、「中央稜は初心者向き」という拓哉の言葉を信じることにした。一ノ倉沢や衝立岩という快い響きに憧れもあった。

テールリッジから望む衝立岩

登攀開始は８時。１ピッチ目は難なくクリア、２ピッチ目のトラバースに身体をこわばらせ、３ピッチ目の終了点はフェースの狭いレッジで、不安定な姿勢で谷を見下ろしている。見上げればルートの核心のチムニーが垂直に見えた。本谷上部の雪渓は割れており、崩落すると魂を揺さぶるような大音響をたてて谷にこだました。まるで山そのものが崩れるような錯覚に襲われた。

妻は不安な気持ちを必死に抑えているのが表情から読み取れる。期待と不安（後悔）とが入り混じる複雑な心境であったと思うし、私自身も同じ気持ちだった。彼女は一ノ倉沢というネームバリューに押しつぶされそうになって、良く眠れない日が続き体重も減った（これは嬉しいらしい）と後述している。

核心の4P目を攀る

還暦過ぎた善良なハイカーである二人が、何故こんな所に張り付いているのか不思議な気もした。昨年来、妙義の険悪な稜線を歩き、榛名黒岩や伊豆城ヶ崎でトレーニングをし、四国九州の百名山遠征を挟んで、二子山西岳中央稜でアルパインに挑戦したのも記憶に新しい。その流れで、いまクライマー憧れの一ノ倉沢の

壁に取り付いている。その間に彼女は岩場で骨折も経験していたので、恐怖心が重くのしかかっていたかもしれない。

衝立ノ頭まで８ピッチ、逆層の凹角をクリアし、明るいフェースは爽快なクライミングを楽しむことができた。一ノ倉沢の雪渓を見下ろす高度感は相当なものがあり、緊張感とともに、来て良かったという思いが錯綜した。

草付きの最終ピッチになって初めて緊張から開放され、午後１時に衝立ノ頭に抜けた。食事しながら眺める谷川連峰馬蹄形稜線の上に巻機山が感動ものだった。巻機山をはじめ、朝日岳、笠ヶ岳、その後ろに至仏山、尾瀬笠ヶ岳、上州武尊山、その肩に日光白根山までも見えた。昔歩いた懐かしい山を前に、拓哉と学生時代の思い出に浸っていれば、吹き抜ける風が心地よかった。

下りは懸垂なので、登りより幾分か気持ちが楽だった。衝立岩の基部までおよそ330mだから、東京タワーとほぼ同じくらいの高さ。登攀及び下降に13時間半かけて出合に戻った。衝立ノ頭に立てた感動がジワジワと湧き上がってきた。

あれから半年、おぎゃ～と共に妙義の筆頭岩を登り、拓哉に連れられて雨の小川山のガマルートを登った。秋には八ツの横岳小同心クラックや稲子岳南壁も登った。未だに自主的にクライミングする意気地がなく、我々のレベルに合ったルートを探してくれる拓哉頼みのヘナチョコクライマーから脱しきれないでいる。

逆層の凹角

懸垂下降する拓哉

## 後立山（八峰キレット、不帰嶮）を縦走して

１０期（昭和４６年卒）田中　康則

今年の夏の北アルプスは後立山連峰の縦走と西穂高岳を企画した。

８月１３日（土）朝５時に信濃大町の宿を出発。タクシーで扇沢へ。柏原新道から鹿島槍ヶ岳に向かった。種池山荘まで３時間の登りである。これより先は稜線歩きとなる為、お花や景観を楽しみながらの歩行である。爺ヶ岳を過ぎ、冷池山荘に宿泊。

８月１４日（日）５時過ぎに登山を開始。鹿島槍南峰までは一般的な山道である。快晴で賑わっている。北峰に向かうことを決断し、ガレ場の急傾斜道を下る。北峰直前に分岐があったので一休み。そのままキレット小屋に向かう。浮石なども多く、慎重に進む。八峰キレットは鎖やハシゴがしっかりついており、整備されているが、さすが高度感だけはたっぷりしている。キレット小屋で休む間もなく、五竜岳へ晴天の稜線で、剱や立山連峰が素晴しく見える。ガレ場で鎖場、ハシゴが多い難路である。急傾斜の岩場を登ると五竜岳頂上である。五竜山荘に宿泊。翌日は唐松岳から下山。

９月１８日（日）白馬八方の宿を朝5時にタクシーで猿倉へ。白馬連山は快晴である。ここから登山の開始である。白馬尻を過ぎ、アイゼンを装着し大雪渓を登る。渡りきっ

たところでアイゼンを外し、白馬岳へ。村営頂上宿舎でうどんを食べる。そこから杓子岳と鑓ガ岳を経由し天狗山荘へ。宿泊者は9人で部屋は一人でゆっくりと眠れた。

９月１９日（月）朝5時に起床。天気は晴れ。不帰嶮に向け出発である。素晴しい日の出を背景に、見晴らしの良い稜線を歩く。天狗の頭を過ぎ、標高差３００ｍを一気に下る。天狗の大下りである。不帰キレットで小休止して、不帰１峰へ。ここから不帰嶮（かえらずのけん）の核心部が始まる。不帰２峰北峰岩壁を前にして小休止。絶好の山日和であるが、周りには誰もいない。垂直に見える岸壁だが、取り付いてみると足場も手がかりもしっかりしている。高度感は満点。途中で逆行者と出会い、後３０分で頂上とアドバイスを受ける。登りきると梯子が渡してある。その先は絶壁の信州側をトラバースして行く。不帰２峰北峰着そして不帰２峰南峰へ。ここまで来ると一安心、唐松岳の登山者も見える。不帰３峰は越中側を巻き、唐松岳へ。八方尾根から下山。

１０月９日（日）帝国ホテル前から登山、西穂山荘から西穂高岳へ。この日も絶好の山日和で大勢の人で賑わっていた。翌日は焼岳へ縦走。上高地に下山した時は心地良い風が吹いていた。全てに充実した登山でした。

## 近況報告

**２０期（昭和５６年卒）の佐々木晃（ささき農園）です**

3月11日の大地震では当地（茨城県桜川市）も震度６強の激しい揺れに襲われました。揺れによる被害はそれほどでもなかったのですが、福島原発事故の影響は深刻でした。事故直後に茨城県内各地のホウレンソウなどから基準値を超える放射線が検出されて出荷停止になったことから２か月近く休業を余儀なくされ、出荷再開後も放射能汚染を懸念して茨城県産の野菜は当分控えたいというお客さんが続出。事故から９か月たった今も売り上げは落ち込んだままです。当地の空間放射線量も野菜から検出される放射性物質も基準値以下で推移しており、私自身は、津波で家族を失った人、不自由な避難生活を余儀なくされている人、ましてや比較的高い放射線量が続いている地域で暮らし続けざるを得ない子供たちがまだ多数いるときに、原発から150kmも離れていながら将来起きるかどうかわからない健康被害に怯えて暮らすことには違和感を感じて、普通に生活しています。とはいっても我が家の野菜も3月10日以前と同じであろう筈もなく、心配する人の気持ちも理解できます。環境中に広くばら撒かれてしまった放射性物質からは逃れようもないと思うのですが、農業をやめて茨城県を離れた若い農家もいると聞いています。毎年貰いに行っていた県営公園の落ち葉も放射能汚染の可能性があるという理由で断られてしまったように、事故の影響はまだ続きそうです。

そんな今年も数えてみたら14回もTUWV仲間が農作業を手伝いに来てくれました。今年来てくれたのは笠原さん（18期）、岩屋・岡崎・南條・本郷・渡部（20期）、植木・千田・冨士原（21期）、石川・手塚（22期）。みんなが来てくれるようになってか

ら７年目、月に１回のワンゲル来訪がすっかり我が家の生活リズムになっていて、今春高校生になった娘も小学生のころと変わらずに親父の友達連中と鍋を囲み、焼肉をつついています。厳しい状況の中、１年間楽しく野菜作りを続けて来られたのもTUWV仲間と家族、そして野菜を食べ続けてくれたお客様のおかげだと感謝しています。

６月にはタマネギの収穫とネギの定植を手伝ってもらいましたが、最近は汗だくになって働き、へとへとになって酒を飲んで寝るばかりでなく、右写真のように息抜きすることもできるようになりました。まだご縁のない方も一度お越しください。

**２２期（昭和５８年卒）西川雅明です**

毎年山を走る事ばかり書いてます。今年も書きます。これを書かないと一年が終わりません。山を走る事はいまや私の生活の一部となりました。

毎日走っています。公園やジムで。毎週末走っています。山や河原を。月間 400km。多いときには 500km 超。

仕事の時間は仕事に集中します。家族の時間は家族に集中します。でもそれ以外は走る事ばかり。空き時間はラン仲間と Twitter や Facebook。そして会食。メリハリがあります。

今年のハセツネは 10 時間 4 分。年代別 4 位入賞。自己ベストを 1 時間以上更新しました。奥多摩を 71km も走るのは物好きです。でもこのレースはいつも燃えます。

トレランブームみたいです。多分「激走モンブラン」や「Born to Run」が火付け役です。私にも火がつきました。たまたま噴火口の近くにいました。メディアの力は大きいです。

これからも走ります。どこまで走るのか。わかりません。ただ毎日加速しています。行けるところまで行く覚悟です。来年はもっと大きなレースを目指します。

**２２期（昭和５８年卒）利根川敏です**

結婚２５周年の節目に、夫婦で北欧と東欧をまわってきました。足が向くのははやり大自然、ノルウエーのフィヨルドや残雪の山々、クロアチアの国立公園などを堪能してきました。

氷河が作る北欧の大自然（ソグネフィヨルド）やエメラルドグリーンに輝く湖群（プリトヴィッツェ）など、長い年月をかけて神様がつくり上げた美しい景色には、本当に感動しました。

電子メールアドレスの管理人は今後とも続けていきます。
電子メールの変更がありましたら、２２期の利根川（GWT00287@biglobe.ne.jp）まで連絡して下さい。

## 新 年 会 の お 知 ら せ

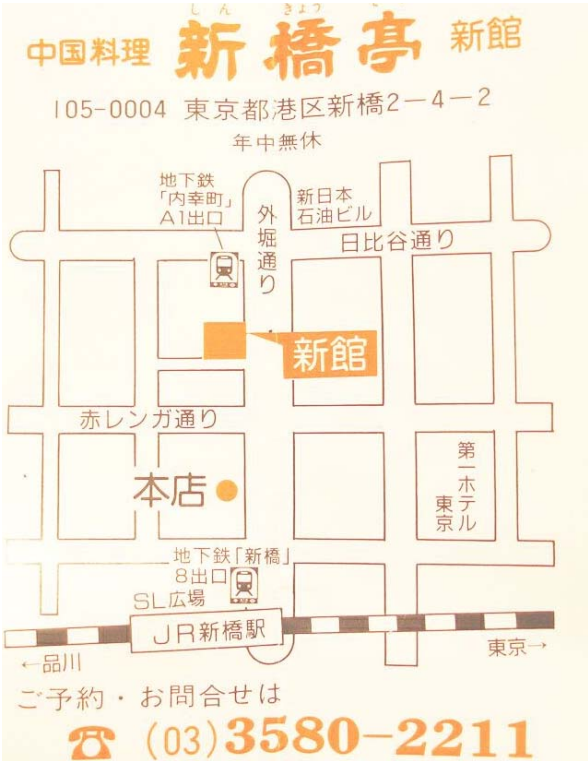
新年会は**毎年1月の最終金曜日**にいつもの所で行っています。

**2012年1月27日(金)18:30** (会費は10,000円の予定)

新橋駅のすぐ近くにある**新橋亭(しんきょうてい)新館(TEL 03-3580-2211)で行います。**

お誘いの上ご出席下さい。特に若い人の出席は大歓迎です。遠くの方でも東京に出張などで来るような場合には、ぜひ出席して下さい。飛び込み大歓迎です。逆に、出席ということになっているのに欠席される方も結構います。これは本当に幹事泣かせ。***予定が変わった時は早めにご連絡***下さい。

連絡先　佐藤拓哉　TEL 046-841-8622　メール:　taku0412.and.ogya1103@jcom.home.ne.jp




＜2011年新年会出席者＞

(S39)小俣勝男、岡好宗、後藤龍男、佐藤敦、松木功 (S40)及川捷悦、小原佑一、島崎質、平塚征英 (S41)相沢宏保、朝倉肇、桜洋一郎、佐藤豊治、渋川尚武、藤田凱巳、八木真介、横山雄一郎、吉田公平 (S42)安達丈夫、新井武、加藤邦明、桜井正久、堤正尚、青木祐二 (S43)石川誠之、大釜寛修、金子清敏、菊谷清、原三郎、藤森英和、真尾征夫、村山貞一 (S44)佐藤拓哉、三原健治 (S45)富川正夫、原田博夫 (S46)薄木三生、黒田和雄、菅原英行、高野秀夫、杉森一太、田中康則、若佐則雄 (S47)園部式正 (S48)神山文範、松井一昭 (S49)岡部安水 (S62)伊田浩之

以上４８名

### TUWVOB会　2010年会計報告

(東京口座)

１．収　入

| | |
|---|---|
| 前回から繰越 | ３８９，０４５ |
| 利息 | １３３ |
| 計 | ３８９，１８８ |

２．支　出

| | |
|---|---|
| 会報　印刷 | ４，５９８ |
| 送料 | ３，３４０ |
| 事務用品、通信他 | １，５６２ |
| 次回繰越 | ３７９，６８８ |
| 計 | ３８９，１８８ |

### ★★ 事　務　局　より ★★

✧ ３月１１日は全ての日本人にとって忘れられない日になってしまいました。家族の無事を確認し、親戚の、そして知人の安否をインターネットで求めました。ワンゲル仲間に犠牲者が出なかったのは奇跡的と言えましょう。しかし、我々の仲間にも家を流された方がいます。私の従兄弟も３人家を失いました。復興への道のりは長く、これからも粘り強く活動が続けられなければなりません。一時の熱病的な復興支援に終わらず、それぞれの立場で息の長い支援をしていきましょう。

✧ **OB会費の徴収は廃止になりました。**

一昨年お知らせしたとおり、一昨年から会費の徴収は廃止になりました。